

東京YMCA



YMCA
創立1880年
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6階
Tel 03-6302-1960
URL <http://tokyo.ymca.or.jp>
発行所 公益財団法人 東京YMCA
発行人 星野太郎

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

伝えたい「職業教育」のその先へ

人を思い、人に寄り添い、人を育てる

東京YMCAの学校教育は、1890年、勤労青年を対象にアメリカのYMCAから外国人教師を招き、英語学校（夜間）を開校したのがはじまりです。若者と社会のかけはしとなることを目指し、130年以上にわたり継続してきたYMCAの「職業教育」。「人を育てる」を根幹にした成長の場は、その形を変えながら、脈々と受け継がれています。



国際ホテル専門学校
MD 望月 温

東京YMCA国際ホテル専門学校は、1935年の創立から開校91年を迎えました。

本校では、専門知識や接客技術を教えるだけでなく、建学の精神に示された『上述の学科を通じて奉仕の精神と高尚なる人格と国際親善、日本文化紹介の礎石たらんとする男女を世に出すこと、これがわれわれの願いであり、また、祈りである』を受け継ぎ、「一人ひとりを大切に」YMCAの理念のもと、学生の成長に寄り添いながら、社会で信頼される人を育てることを教育の根幹に生かした「企業実習」も

据えています。

高校を卒業したばかりの学生だけでなく、大学や他分野から進路変更した学生、各国からの留学生など、多様な背景をもつ若者が学んでいます。入学時には自信を持てなかつた学生が、本校での学びと実習、学事、様々なYMCAの活動を通して成長し、卒業後はホテルや旅館のサービスの現場でお客様をお迎えし、将来を担うマネジメント層、あるいは経営者となつて活躍する姿を数多く見えました。

学生それぞれが持つ「良質な個性」と「克服すべき課題」を教職員や講師が理解し、支援できることが本校の強みです。また、ホテル・宿泊業界との強い信頼関係を生かした「企業実習」も



東京YMCA国際ホテル専門学校は、職業専門教育に加え、多様な人々を理解し、人と人をつなぐことに喜びと幸せを感じる人財を社会へ送り出す役割を担ってきました。多文化共生を体現できる学校を目指し、留学生と日本人学生がともに学び、互いの違いを理解しながら「人として高め合う」環境の中で、「人を思い、人に寄り添い、人を育てる」というYM

CAの教育理念をもとに「人を育てる学校」から、その先の「人が育つ学校」として、誰かの幸せのために行動できるホスピタリティ人材を育て続けていきます。

支え合い、自分らしく生きる力をつける



高等学院
学院長 上瀧徹也

東京YMCA高等学院は、高校卒業資格の取得や進学・職業教育にとどまらず、「あなたがあなたである場所であり、社会で自分らしく生きていくための学びの場です。」

年齢や国籍、家庭環境、障がいの有無などにかかわらず、誰もが尊重される社会の実現を目指してきたYMCAの理念のもと、通信制サポート校としての学びと社会教育を通して、一人ひとりに寄り添い、その成長を支えてきました。



たくあんづくりで大根を干す

本校には不登校の経験や発達障がいなどの特性、人間関係や将来への不安など、多様な背景や経験のある生徒が集まっています。生徒を一律の基準で評価するのではなく、一人ひとりの歩幅や個性に

相手を思いやる心で接することを学んだ
ホテル科二年 大島麻帆

職実績があることを知り、母の勧めもあって、YMCA国際ホテル専門学校への進学を決めました。この学校には、二つの強みがあると思います。一つ目は、教務スタッフが生徒一人ひとりに親身に向き合ってくれることです。就職活動では、面接の練習や応募書類へのアドバイスを加え、選考を通過した後も、次のステップに向けたサポートしてくださりました。おかげで第一志望のホテルへ就職が決まりました。

ほとんどなかったのですが、新鮮な経験でした。留学生と関わる中で、自分が知らなかった文化や言葉

西東京市で活動している地域子ども会「杉の子」が昨年、創立五十周年を迎えました。町会や他団体に属さず、ボランティアによる自立した団体として、半世紀も活動を継続するのは稀有なこと

す。学校生活や行事、体や地域社会とのつながりを意識しながら生きる「人」を育てることも重要な使命だと考えています。これまで培ってきた「寄り添う教育」に加え、社会とのつながりをさらに広げていくこと、「卒業させる教育」ではなく「社会につながる教育」を、一人ひとりが自分らしく生き、自分らしく働ける環境で、自分を偽らずに、自然体で過ごすことが、本校が目指す教育なのです。

赤三角

活動している地域子ども会「杉の子」が昨年、創立五十周年を迎えました。町会や他団体に属さず、ボランティアによる自立した団体として、半世紀も活動を継続するのは稀有なこと

（元副総主事 並木信一）

寄り添い 対話し 魅力ある学校へ

東京YMCAが目指す学校教育は、スキル習得のその先を見えています。学生・生徒・児童一人ひとりを大切に、「つながり」や「かかわり」を育みながら、地域や社会に貢献できる人材を送りだしています。

一人ひとりの歩みに伴走する 社会体育・保育専門学校

東京YMCA社会体育・保育専門学校は、社会体育、スポーツ、保育、幼児教育の分野で、人に寄り添い、人を支える専門職を育ててきました。私たちが大切にしているのは、資格を取得し、就職することだけを目的とした教育ではなく、YMCAが長く掲げてきた職業教育の精神を土台に、一人ひとりの学生をかけたえのない存在として受けとめ、その成長に伴走することです。

一人ひとりの心を大切に 医療福祉専門学校

介護福祉士・作業療法士を養成する専門学校として、知識や技術の習得だけでなく「人を大切にする心を育む教育」に重きを置いています。その根底には、YMCAで長年受け継がれてきた「一人ひとりを大切にする」という理念があります。カレッジスピリットの「互いに愛し合いなさい」のもと、一人ひとりの背景や個性に寄り添いながら、学生と教職員が共に学び、共に成長する関係づくりを目指しています。

でなく、人としての土台を育てることも大切にしています。社会では、スポーツ指導者も保育士も、目の前の一人に向き合う姿勢が求められます。子どもや高齢者、障がいのある方、地域で生活する多様な人々と関わる中で必要なのは、相手を理解しようとする心、違いを認め合う姿勢、そして他者とともに生きる力です。

本校では、現場実習や地域活動、仲間との協働学習を通して、その力を育んでいます。これから社会は、変化がますます大きくなり、正解の見えにくい時代になります。だからこそ本校は、専門性と人間性を兼ね備え、誰かの成長や喜びを自分の喜びとして感じられる人材を社会へ送り出していきます。

Y M C Aの学校教育が目指す明日は、人を思い、人に寄り添い、人を育てる営みの先にあると信じています。私たち一人ひとりの歩みに寄り添い、多様な人々と協働できる医療・福祉の専門職を育成すること、これが私たちの使命です。

人、人と地域をつなぐ専門職へと育っていきます。これからの「互いに愛し合いなさい」というカレッジスピリットのもと、一人ひとりを大切にする教育を実践してまいります。人を理解し、人に寄り添い、多様な人々と協働できる医療・福祉の専門職を育成すること、これが私たちの使命です。

一人ひとりの多様性を尊重する インターナショナルスクール

東京YMCAインターナショナルスクール(T N S・タイアス)には、さまざまな国や地域にルーツのある子どもたちが集い、言葉や文化の違いを認め合いながら共に学んでいます。その環境の中で、国際的な視野と豊かな人間性を育みます。T N Sでは、多様な社会の一員として、思いやりと自信をもち、広い視野で世界を見つめ、主体的に生きる力を身につけていきます。

シリーズ 資料室の窓から<128> Y M C Aの働き・ 職業教育一筋に

本会元副総主事 齊藤 實

「東京YMCAって、何しているところ？」と聞かれることがよくあります。それは、YMCAの歴史が長いからです。1850年に設立されたYMCAは、1926年に東京YMCAが設立されました。その歴史を振り返ると、YMCAの働きは、職業教育一筋に集約されています。1926年に設立された東京YMCAは、1927年に「東京YMCA職業教育機関」を創設しました。これは、当時の東京YMCAが、職業教育に力を入れた結果です。1927年に設立された東京YMCA職業教育機関は、1928年に「東京YMCA職業教育機関」を創設しました。これは、当時の東京YMCAが、職業教育に力を入れた結果です。1927年に設立された東京YMCA職業教育機関は、1928年に「東京YMCA職業教育機関」を創設しました。これは、当時の東京YMCAが、職業教育に力を入れた結果です。

一人ひとりを尊び、共に生きる

にほんご学院

「ことばの教育を通して、人と人、人と地域社会をつなぐ力を育むこと、これが私たちの使命です。にほんご学院は、一人ひとりを尊重し、共に生きることを目指しています。私たちは、一人ひとりの個性や能力を尊重し、共に生きることを目指しています。私たちは、一人ひとりの個性や能力を尊重し、共に生きることを目指しています。私たちは、一人ひとりの個性や能力を尊重し、共に生きることを目指しています。

【ベネズエラ地震】 緊急支援の街頭募金行



6月24日に発生したベネズエラ地震の被災地支援のため7月16日に、高田馬場駅前で行った街頭募金を実施しました。写真。会員、学生、職員などが街ゆく人々に呼びかけ、54,250円が集められました。お寄せいただいた募金は、ラテンアメリカ・カリブ海YMCA同盟を通じて、現地YMCAの救援・復興支援活動に用いられます。

希望を耕し 未来を紡ぐ

必要としている人のために働きを進めます

東京YMCAが掲げる「VISION150」には
5つの行動指針が示されています。
5月の「会員大会」で報告された具体的な
取り組みについて、詳しくご紹介します

1. ユースが輝く場をつくりま

ジュニアリーダーの成長に寄り添う

高校生のなかには、不安や生きづらさを感じている人がいます。そのようなかで、家や学校以外で自分らしくいられ、新しい関係をつくりながら挑戦できる機会が求められています。

東京YMCAでは2026年度より「ジュニアリーダー」（高校生ボランティア）の募集を開始し、現在17人の高校生が登録しています。

月1回の「定例野外グループ」活動ではユースボランティアと協力しながら、「ジュニアリーダー」の成長に寄り添う活動を展開しています。

「安全を確保するには？」

「安心して自分を表現できるか」となるよう努めてまいります。今後のジュニアリーダーの成長を共に

見守り、応援をお願いいたします。

（野外教育・ユース 梅原大毅）

2. 地域とともに歩みます

東雲地域7施設で街づくりに取り組む

東雲エリアには、乳幼児から90歳を超える高齢者まで、多世代が暮らし、この地域で保育園・児童館・学童クラブ・高齢者施設の7施設を運営し、地域に密着した活動を展開しています。

集合住宅が多いこの地域では、「住民同士のつながりをどうやって育むか」が課題のひとつであり、YMCAが街づくり



参加しました。

バラクライミング選手の平井亮太さんをはじめ日本バラクライミング協会や地域団体、大学生ボランティアなどの協力を得て、クライミングのほか、ビッグカヌーやアーチェリー、ポッチャなど、誰もが楽しく体験できるよう工夫したプログラムを実施しました。

参加者一人ひとりに合わせてルールや距離を調整し、補助具やサポートを切替えました。「省エネ・食品ロス・ごみ削減」を掲げ、保育施設では給食で、苦手なものを最初に減らすことでフードロスを実現。子どもたちから「給食になるね」という声が上がりました。

4. 子ども未来のために環境を守ります

一人ひとりの小さな選択が未来をまもる大きな力に

「気候変動プロジェクト」では「電気」に着目し、自前施設の電力を100%再生可能エネルギーへ供給する発電所へと切り替えました。「省エネ・食品ロス・ごみ削減」を掲げ、保育施設では給食で、苦手なものを最初に減らすことでフードロスを実現。子どもたちから「給食になるね」という声が上がりました。

この活動を東京YMCA全体へ広げることを目標に「ゴミ分別化」の啓発ポスターや実践可能な「環境への行動指針」を提案します。また「ECクラブ」の立ち上げや発電所見学も予定しています。一人ひとりの「小さな選択」が子どもたちの未来を守る大きな力になると信じ、歩みを進めてまいります。

5. 活動の基盤となる組織を強くします

広報ツールで発信力を高め、思いを伝えたい

広報室では「機関紙」「ホームページ」「メールマガジン」「ソーシャル・ネットワーク」を通じて、子どもたちや保護者、会員、ボランティア、職員など、YMCAに関わる一人ひとりの声や思いを届けています。

参加者募集や活動の実施を報告するだけでなく、「なぜこの活動を行っているのか」「どのようなことを大切にしているのか」「どんな未来を願っているのか」を発信

野の花、空の鳥

東京YMCA総理事

星野 太郎



コメ一升六合・下駄・サンダル・チリ紙：90年ほど前に行われた青年・成人キャンプの持ち物リストです。時代を感じます。さらに「下界と隔離した生活のため、新聞・ラジオと縁を切り」と、持っていないものまで記されています。

キャンプの持ち物

この「新聞・ラジオ」を今に置き換えるとおそらくスマートフォン（スマホ）でしょう。多くのキャンプでは、

私たちはなぜ日常を離れ、キャンプ生活を送るのでしょうか。それは自然に向き合うため、共に過ごす仲間に向き合うため、そして自分自身に向き合うためです。その時間を大切にするからこ

え、タオル、懐中電灯……。100年近く経った今も、キャンプ生活はほとんど変わっていないのです。それは、簡素な共同生活そのものがキャンプの価値であり、時代が変わっても、人を育てる本質は変わらないことを教えてくれます。

さあ、夏です。1932年7月、この機関紙に掲載された第一回野尻学荘（34泊35日の少年長期キャンプ）の参加者募集には、こんな言葉が添えられていました。「若き日の清き一日は、一生の力で

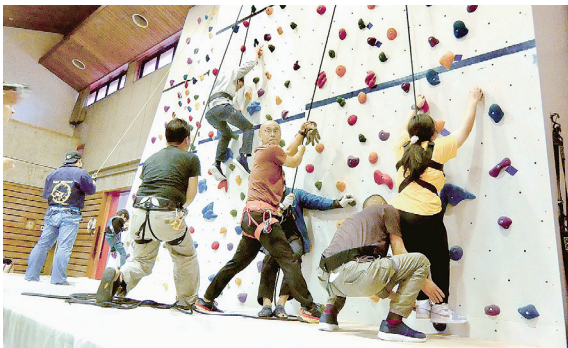
3. 多様性のある場を大切にします

障がいのある無年齢も超えて楽しく過ごす

障がいの有無や年齢を超えて、誰もが一緒に楽しめる場づくりを目指し、「第1回ユニバーサルフェスタ」を10月4日に山中湖センターで開催しています。

「車椅子の方でもクラ イミングが楽しめるかな」という思いから始まったユニバーサルフェスタが、「クライミングをやってみたかったんだ」という誰かの夢とつながり、実現できたことに感動し、何よりも大きな喜びになりました。

このプログラムを継続して開催し、多くの方に広げていくことが目標です。今後



【熊本地震】緊急支援募金を開始

7月28日に熊本地方を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。現地の状況やニーズを把握しながら、被災された方々に必要な支援を届けます。

継続的な支援活動につなげていくために、「緊急支援募金」を行います。

ご協力をよろしくお願いいたします。

募金方法

【銀行振込】
三菱UFJ銀行 神保町支店（013）
普通 2304804
（口座） トウキョウワイエムシイエイ
※お名前の上に「クマモト」とお入れください。

【WEB募金】
クレジットカード決済
二次元コードを読み取り、お手続きください。



「ホームページ」「メールマガジン」「ソーシャル・ネットワーク」を通じて、子どもたちや保護者、会員、ボランティア、職員など、YMCAに関わる一人ひとりの声や思いを届けています。

参加者募集や活動の実施を報告するだけでなく、「なぜこの活動を行っているのか」「どのようなことを大切にしているのか」「どんな未来を願っているのか」を発信

中元美佳

INFORMATION

■早天祈祷会(9月)■

会員による、聖書に基づくメッセージの後、皆で祈り、讃美歌を歌います。
クリスチャンでない方もお気軽にどうぞ。
日 時：2026年9月1日(火)
7:30~8:30
奨励者：金 性済氏
(東京韓国YMCA理事)
会 場：在日本韓国YMCA 9階
2・8記念国際ホール
問合せ：会員部(03-6278-9071)

■第2回ユニバーサルフェスタ■

〈山中湖センター〉
車椅子の方とご家族、どなたでも、アクティビティを体験できます。山中湖の自然の中で楽しい時間を過ごしませんか。
日 時：2026年10月3日(土) 4日(日)
＊宿泊も可能です
時 間：10時～
対 象：どなたでも。車椅子の方大歓迎
宿泊にはお申込みが必要です
(応募多数の場合は抽選)
申込締切：9月23日(祝・水)
午後12時まで
会 場：山中湖センター



第40回インターナショナル・チャリティーラン

障がいのある子どもたちを支援し、「障がい」への社会的な理解と関心を高める駅伝大会「インターナショナル・チャリティーラン」を開催します。今年は第40回を記念して、全国のYMCAで同時にオンラインウォーキングも開催。それぞれの方法で楽しく社会貢献ができるチャリティーイベントです。益金はYMCAが主催する障がい児キャンプなどに用います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。



締切9月4日

参加チーム募集

【日にち】2026年9月26日(土)
【時 間】10:00~14:00
【場 所】都立木場公園内特設コース
【参加費】1チーム 10万円
【競技ルール】約1.3kmのコースを1人1周、1チーム6人で6周します。
【オンラインウォーキング】(全国同時開催)
40回を記念して全国のYMCAで開催します。(11月下旬~12月上旬の15日間)
【こどもラン】1.3kmを走ります



ボランティア募集

コースの誘導や
沿道整理など

東京YMCAメルマガ登録募集中

東京YMCAのプログラムやボランティアなどの情報をお届けします。月1~2回の不定期配信。登録はこちら



東京YMCA公式SNS

Instagram



https://www.instagram.com/tokyoyymca/

x (旧Twitter)



https://x.com/Tokyo_YMCA

Facebook



https://www.facebook.com/tokyoyymca

●●● 会員のご案内 ●●●

「会員」とは、東京YMCAの主旨に賛同し、会費によって活動を支援くださる方のことです。YMCAは、青少年の健全な成長をサポートし、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるために、より多くの会員と共に活動していただくことを願っています。



詳細はこちら



初めてホテルに触ったよ

高等学院で地域交流

6月19日、山手コミュニティセンターで地域異世代交流企画「ホテル観賞会」を開催し、子どもから高齢者まで約250人が参加しました。

利用している子どもたちなど、幅広い方々が参加され、地域交流の場となりました。

今年で3年目の開催となる「ホテル観賞会」は、生き物を通して人と人が交流し、未来の環境について考えるきっかけになることを目的としています。この時期、プールやキャンプに参加する子どもも多いですが、世代を超えてホテルの魅力や、地域住民や近隣の子ども食堂を体験する機会があります。

原田慧太

世代を超えて心の交流図る

スマホ相談室@東陽町

6月14日、東陽町コミュニティセンターで、地域のシニア世代を対象に「スマホ相談室」を開催し、15人が参加しました。

「スマホ相談室」は、コロナワクチン接種の申し込みがパソコンやスマートフォンからしかできなかった当時、操作に戸惑う高齢者の姿を目の当たりにしたことをきっかけに企画された取り組みです。

困りごとや使い方について、一つひとつ丁寧に説明がわかりやすかった。

「スマホ相談室」は、操作方法などを相談するだけでなく、ユースとシニアの世代が共通の時間を過ごし、支え合う「地域の世代間交流の場」となっています。



参加者からは、「学生さんがとても親切で、説明がわかりやすかった」といった声が聞かれ、中には「家族に使い方を聞くと、どうしても遠慮がなくなってしまう、ついでに話も聞きました。」「こうした学生の皆さんに優しく教えていただける機会が本当にありたい」という感想が寄せられ、学生たちにとっても、世代を超えた心の交流は有意義な経験となったようです。

沖 利柯